

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立鍋島中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した生徒の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	91.5%	86.1%
将来の夢や目標を持っている。	73.0%	67.5%
自分には、よいところがあると思う。	88.4%	86.2%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	86.2%	84.7%

「学校に行くのは楽しいと思う」「将来の夢や目標を持っている」「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。学校行事等でのお互いの頑張りを承認し合う取組や、中学校卒業後の進路を見据えて取り組んでいるキャリア教育の成果が出ていると思います。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目も全国より高い結果が出ています。日頃の授業での「鍋中学び合い」を通して、多くの意見や考え方に触れることで、自分自身の考えの深まりや広がりを実感できていると思います。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.5%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	18.5%	20.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	28.0%	30.8%
「30分以上、1時間より少ない」	22.8%	19.1%
「30分より少ない」	13.2%	11.3%
「全くしない」	8.5%	7.7%

家庭学習については全国平均と比べるとやや低い傾向にあり、1時間未満の生徒が3割以上います。また、中には全く家庭学習をしていない生徒もいました。家庭学習は、将来の夢や目標を達成するために自分に必要な力を身に付けるための時間である、ということを意識することが必要であると思います。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

○主体性を伸ばすために、授業や学校生活において「自己決定」を意識した場面を設定していきます。その活動をしていく中で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりするためにICT機器を活用しながら、授業等における「鍋中学び合い」のさらなる質の向上をめざした授業改善を行っていききたいと思います。

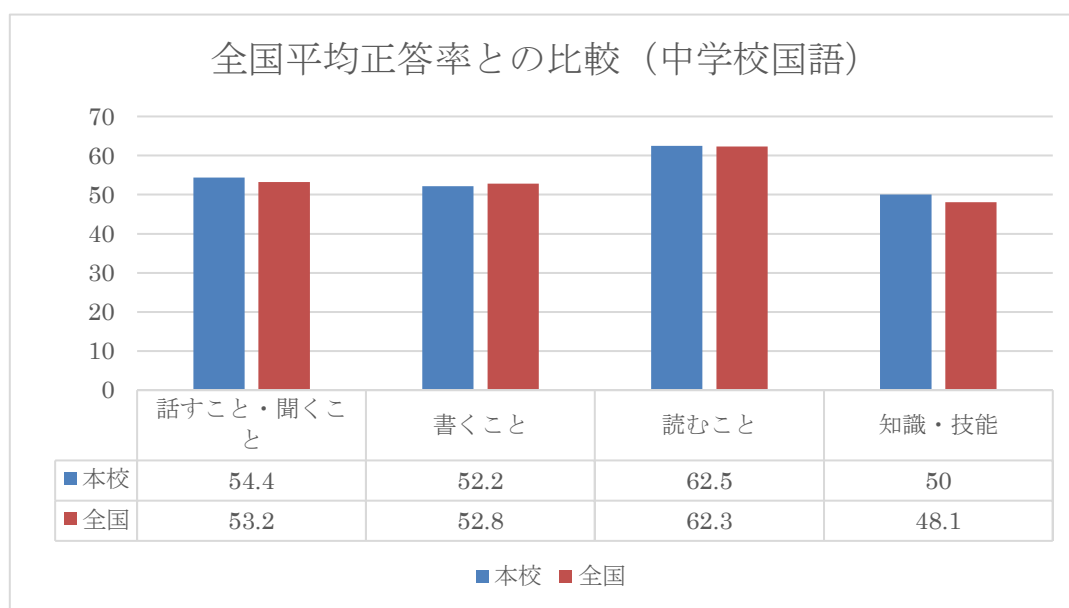
○家庭学習において、授業内容と関連した課題設定や、サクセスカレンダーを活用した具体的な学習計画の作成と振り返りを行いながら、自己調整力を身に付ける取組を行っていききたいと思います。

【ご家庭では】

○家庭学習について、「家庭学習の手引き」やお子様のサクセスカレンダーをご覧になり、学習内容や取組時間については、将来の夢や目標達成のための取組の1つであることを意識して学習できるように励ましてください。

2 国 語

(1)結 果



今回の調査では、全国の平均正答率を、「話すこと・聞くこと」が 1.2 ポイント、「知識・技能」が 1.9 ポイント、「読むこと」は 0.2 ポイント上回りました。しかし、「書くこと」は 0.6 ポイント下回る結果となりました。

(2)成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」、「知識・技能」が全国の平均正答率を上回りました。特に、「話すこと・聞くこと」の「発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く」という問題では、全国平均を3.7ポイント上回りました。普段から資料や ICT 機器などを用いて、自分の考えを分かりやすく伝える活動を行っている成果が表れていると考えられます。

一方、「書くこと」は全国の平均正答率を下回っており、苦手になっている生徒が多くいます。特に、「ちらしに『会場図』を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する」問題の正答率が全国平均より 4 ポイント下回っています。日々の授業の中で、目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして書く活動を取り入れていきたいと思います。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

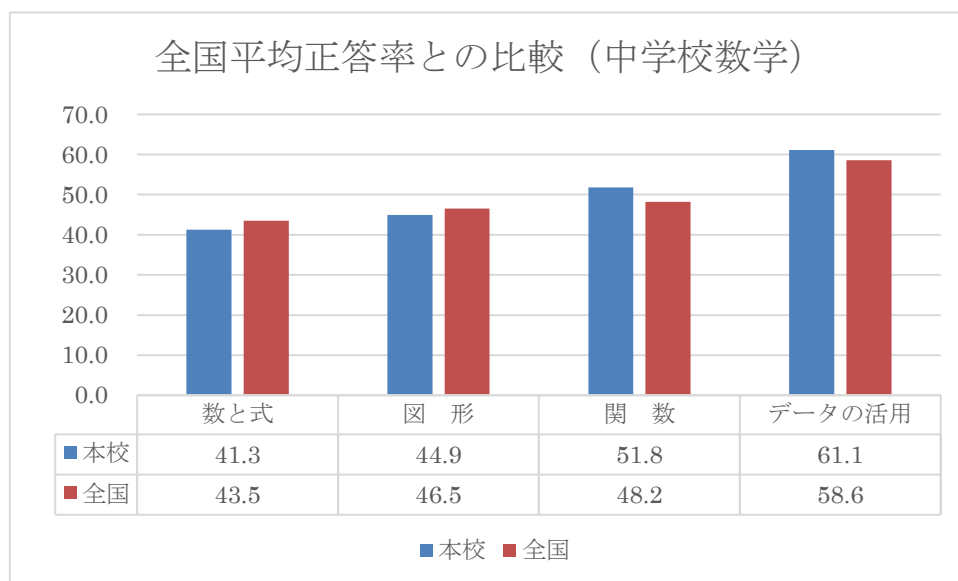
- 「鍋中学び合い」の授業を通して、他者の考えを聞いたり、他者に自分の考えを分かりやすく伝えたりする力を育成します。
- ICT 機器なども活用しながら、目的に応じて材料を集め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして文章を書く活動を意識して行っていきます。

【ご家庭では】

- 自分の感想や考えを自分の言葉で伝えられるよう、問いかけや言葉かけをお願いします。
- 読書を大切にしてほしいと思います。いろいろな種類の本に触れ、さまざまな表現や用語に出会うことで、文章を読み取る力や語彙力が身に付きます。読んだ本についての感想や自分の考えを話させたり書かせたりすることで、他者に自分の考えを分かりやすく伝える力や、伝えたいことを明確にして文章を書く力の育成につながります。

3 数学

(1) 結果



(2) 成果と課題

今回の調査では、全国平均と比べて、「関数」と「データの活用」が上回り、「数と式」と「図形」がやや下回っていました。式の意味や数学的な用語の意味を理解し、問いについて考えることができていました。問題の読み違いやテストの時間配分のミスなども見られましたが、数量を文字で表すことを苦手としている生徒が多くいます。観点別にみても、「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに、全国平均と同程度で、証明の記述問題もできていました。今までに何度も練習している問題の正答率は高く、見慣れない問題や解く方法を説明する問題はあまりできていませんでした。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

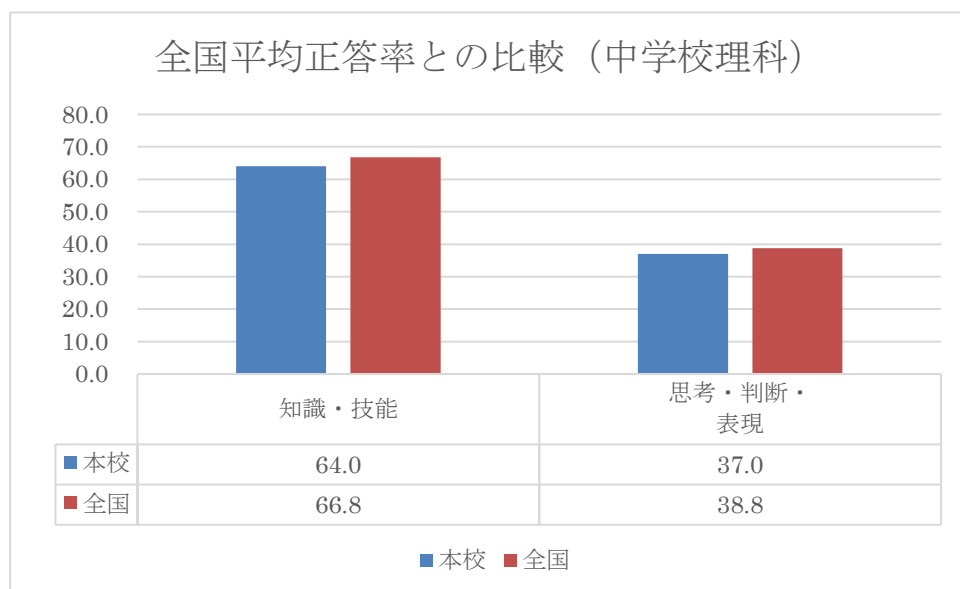
- 授業において、「鍋中学び合い」を取り入れ、自分の考えを数学用語や式を活用して表現する活動を行います。
- 単元の中で小テストを実施し、フラッシュカードを用いて、基礎・基本の定着を図ります。
- 振り返りシートの記入や ICT 機器も活用して、自分がわかったことや理解が不十分なことを明確にして、「振り返り」を行います。
- 定期テストやレポート課題を活用して、文章表現に慣れさせ、思考力の向上を図ります。

【ご家庭では】

- 授業で習ったことを、その日のうちに数問でよいので、デジタル教科書やワークを使って、復習するように言葉かけをお願いします。
- タブレット端末を使って、e ライブラリなどでも学習ができ、その結果もご家庭で見ることができるので、取り組むような言葉かけをお願いします。
- テスト終了後は、必ず解き直しをして、振り返りをするように言葉かけをお願いします。

4 理科

(1) 結果



(2) 成果と課題

今回の調査では、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに全国平均を下回っていました。今年度から理科の問題はC B T方式と呼ばれるタブレット端末を利用して実施する試験方式で行われました。この方式では、受験者全員が同一問題を解く方式ではないので、個々の問題に対しての考察はできませんでした。全体的には「エネルギー」「地球」を柱とする領域の問題の正答率が低く、「生命」を柱とする領域の問題の正答率が高い傾向にありました。そもそもタブレット端末を利用した試験がほぼ初めての状況であったため、この方式に慣れていなかったと考えられます。今後、この方式が広がることを考えると、小テストをタブレット端末を利用して行うなど慣れさせる手立てが必要であると思われます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業において「鍋中学び合い」を取り入れ、自分の考えをもたせた上で実験・観察に取り組み、結果から内容を考察する力を育成します。
- 授業の導入部に前時の振り返りを行うことで、本時の「めあて」を意識させ、授業内容に対する関心を高め、意欲的な態度で授業に臨ませています。

【ご家庭では】

- 授業で行った内容をその日のうちに確認し、ワークの対応する部分を解くことで学力の定着が図られると思います。授業で何を学んだのか尋ねていただいたり、ワークを解くよう促したりしていただけたら有難いです。
- 小テストや定期テスト終了後は、必ず解き直しをして振り返りをするよう温かい声かけをお願いします。